

ムササビ形埴輪

これが
ワシレやよ



古墳時代(今から約1500年前)の人々は、どんな理由でこの興味深い埴輪を作ったのでしょうか。

この埴輪は、成田市南羽鳥正福寺1号墳から、発掘調査により発見されました。この埴輪をムササビと考える最大の特徴は、胴部にある飛膜の表現にあります。ムササビは、この飛膜を最大限に伸ばして、数十メートルも離れた木の梢から梢へと滑空を繰り返します。まさに、そのムササビの滑空場面を埴輪として作っているのです。

この埴輪が見る人の心を惹きつけてやまない理由に、その表情にあります。ピンと立った両耳、虚ろな目、豚鼻状に前を向いた鼻、左右に裂けた半開きの口、いずれもムササビの特徴を表しながら、何ともいえない愛くるしい表情を見せています。

ムササビの生息域は、北海道と沖縄を除く、全都道府県に及びますが、ムササビを象った埴輪は、全国で初めての発見です。そのことから、この地域を代表する考古遺物の一つとして、(財)印旛郡市文化財センターのシンボルマークの図柄としても採用されています。

南羽鳥正福寺1号墳出土 形象埴輪群



遺跡位置図



南羽鳥正福寺1号墳空中撮影